

評価項目	重点目標	具体的対策（手段）及び数値目標	手段・ゴールイメージ	自己評価	結果の考察と改善の方策
【確かな学力の向上及び個に応じた教育の推進】	(1) 教育課程の工夫や指導方法の工夫改善に努め、教師の指導力の向上と児童達成感をもつ授業の展開	○ 指導方法の工夫改善に努め、分かる授業の評価率を90%以上とする。 ○ 算数Web学習単元評価システムを100%実施し、その有効活用を図る。	○ 小中一貫教育推進を通して、問題解決的な学習やICT活用、アセスメントシート活用での特性把握、ユニバーサルデザイン授業や、話し合い活動の充実など指導方法の工夫改善に努め、児童・保護者の「分かる授業」の評価率を90%とする。 ○ 算数における基礎学力の定着を図るため、算数Web学習単元評価システムを100%実施し、採点、振り返りを行う。	3	・主題研究でユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、アセスメントシートを使って学級集団及び個々の児童の特徴を把握し、全ての児童に望ましい学習環境と学習指導を提供する授業作りに取り組んでいる。 ・OHCや大型液晶テレビ等を活用して、より分かる授業の実践に努めている。
	(2) 自らの考えを深めていく児童の育成	○ 算数科において、T・Tや少人数指導の指導方法を工夫することにより、CRTの結果を前年度より上回る。	○ 個に応じた指導、算数少人数指導などを組み合わせて、きめ細やかな学習指導を行い、CRTの結果を前年度より上回る。	3	・算数科におけるT・Tや少人数指導を通じて、個に応じたきめ細かな指導に努めている。 ・みやざき小中学校学習状況調査は、全教科県平均水準で、社会・理科は県平均を上回った。
	(3) 個性の伸長を図り、学級の支持的風土を育みつつ高め合う集団の中の一員としての学習習慣の育成	○ 学校が楽しいと思う児童の割合を増やすとともに、欠席率を前年度より下回る。	○ 学びの構え（学習の五か条、チャイム・姿勢・返事・聴く・発表）を身に付けさせ、一人1授業研の授業公開におけるアンケートで定着率が80%以上とする。	3	・1学期の欠席率は1日平均8.6人で、昨年度の8.9人と比較して若干改善している。 ・学びの構えについて共通理解・共通実践し、学習態度に落ち着きがでてきている。
	(4) 個性に対応した特別支援教育の充実	○ 個に応じた指導を行うことにより、困り感のある児童に積極的に対応し、その割合を減らしていく。	○ 就学相談委員会やケース会議の充実を図るとともに、教師の満足度80%以上を目指す。 ○ 就学相談委員会やケース会議の充実を図るとともに、支援体制作りを行い、児童の困り感の軽減を図る。 ○ 「個別の支援計画」作成を推進し、児童の満足度80%を目指す。	3	・特別支援教育校内委員会や就学相談委員会を計画的に開催し、支援体制の充実を図るとともに、必要に応じてケース会議を実施し、児童の困り感の軽減に努めている。 ・個別の支援計画・指導計画を作成し、保護者及び関係機関等と連携して取り組んでいる。
【生命を尊び、豊かな心を育む教育の推進】	(1) 生命尊重を図る指導の充実	○ 体育の時間の充実及び戸外活動を推奨することにより、体力テストの結果を前年より上回る。 ○ お弁当の日の取組等、食への関心を高める取組を実施する。	○ 体位・体力の向上を目指して体育学習と日常的な運動の充実を図り、体力テストにおいて全国標準値や前年度数値を超える種目を増やす。 ○ 全学級での食育授業の実施など、食育指導の充実を図るとともに、「お弁当の日」を設定し、取組状況を公表する。	3	・教科体育の充実に取り組み、体力テストにおいて、全ての学年で前年度よりDE段階児童の割合が減少した。また、市水泳記録会や市陸上競技大会で好成績を収めた。 ・各学年の校外学習の機会に「広っ子お弁当の日」に取り組んだ。
	(2) 人間尊重を基盤に据えた人権教育の推進	○ 全学級、偏見や差別のない安心感のある学級作りを目指す。	○ 夢や希望を抱かせるとともに、生徒指導の3機能を生かした指導と教育相談を充実させ、児童の学校生活満足度を90%以上にする。	3	・支持的な学級風土の醸成、教育相談週間やいじめ根絶週間の実施、10月参観日における「人権教育に関する授業」の公開に取り組んだ。 ・教職員の人権意識及び学級経営力を高めていく必要がある。
	(3) 心の教育の推進のための道徳及び読書活動の充実	○ ファミリー読書、読書貯金等の取組や日常の読書活動を充実させることで、貸出数を昨年より上回る。 ○ ボランティア（挨拶運動・清掃）の参加者を増やす。	○ 読書活動を充実させ、ファミリー読書を推進し、各学年の目標冊数達成率が80%以上となる。（学期ごとの目標…低学年：35冊、中学年：25冊、高学年：15冊） ○ ボランティア活動や無言清掃の徹底など、奉仕・体験活動を推進し、進んで奉仕活動を行っているという自己評価率が80%以上になる。	3	・平成30年度から全面実施の小学校学習指導要領における道徳の教科化に向けて、年間指導計画の別案を作成した。 ・1学期の目標冊数達成率は58%、夏の親子読書取組率は91%だった。また、11月を読書月間とし、学年読書集会、親子読書に取り組んだ。
	(4) 安心・安全な教育環境の整備	○ 事故・事件の未然防止に努め、交通事故0を目指す。	○ 危険予測トレーニングを学期に1回、計画的に実施し、事故の未然防止能力を高める。	3	・安心・安全な教育環境の整備に努めた。今後、校内生活安全の指導に力を入れて、危険予測能力の育成を充実していく。
【地域に信頼される学校教育の推進】	(1) 地域の人材を活かした学校経営・教科指導の充実	○ 効果的な教科指導を行うため、体験活動を多く取り入れる。 ○ 児童の安全・安心に繋がる地域との連携を更に強化する。	○ PTAや広瀬小学校区地域づくり協議会、自治会、広瀬地区青少年育成協議会等、関係機関・諸団体との連携を推進する。	3	・広瀬小学校区地域づくり協議会、自治会、民生委員児童委員等から支援や協力をいただいている。今後、授業支援等、より一層の連携を図っていきたい。
	(2) 学校の様子を学校だより・ホームページ等で学校情報の発信	○ ホームページをリニューアルし、図るとともに、頻繁に更新することにより、アクセス数を前年度より上回るようにする。 ○ 無理なく効果的で長期的に取り組める連携を模索していく。	○ ホームページを随時更新するとともに、学校だよりの毎月発行、まちcomiメールの活用等、学校情報を積極的に発信する。	3	・9月に学校ホームページをCMS版にリニューアルし、随時更新し、2月27日現在のアクセス件数は13018件となっている。また、月1回学校だより発行するとともに、まちcomiメールを活用して情報提供に努めている。